

大会宣言

日本医労連は、7月22日から24日の3日間、すべての組織の奮闘により7年連続の増勢で第65回定期大会を新横浜で開催しました。私たちは、平和と民主主義の根幹が問われる緊迫した情勢の中で、医療産別運動を拡大・強化して大会開催を迎えたことに確信を深め、これからの運動をさらに前進させていくことを確認しました。

大会には、7全国組合・47都道府県医労連の代議員182人、傍聴72人、役員など、全体で338人が参加しました。大会参加者は、職場での奮闘が目に見えようという感動的で、方針を本気で実践していく決意を込めた73人の発言を踏まえ、平和と民主主義、生活と権利、医療・介護・福祉・社会保障などを守り発展させることを決意しました。

安倍自公政権は、「殺し殺される」戦争法案を数の力で強行的に押しすすめようとしています。私たちは、「ふたたび白衣を戦場の血で汚（けが）さない」立場から、戦争法案を絶対に許すことはできません。

この1年間、職場・地域で「戦争法案・憲法改悪阻止、いのちと平和を守る大運動」に取り組み、「戦争する国づくり」阻止、憲法を生かし、社会保障の拡充で安全・安心の医療・介護を実現していくことを確認しました。

「大幅増員・夜勤改善」の課題では、署名の目標達成に向けて、議論と工夫を重ね、「2014秋いのちまもるキャラバン行動」「春のナースウエーブ行動」などで様々な取り組みがおこなわれた豊かな経験を共有しました。

「夜勤改善・大幅増員署名」3年目の最終年となる今期、署名を「たたかひの武器」「組織強化の力」として位置づけ、世論喚起を広げ、100万筆を集約し、国会に提出し、法制化実現などで職場の要求前進を図ることを確認しました。

15春闘は、「生計費原則」に基づく賃金要求への確信と結集が強まり、「ベア要求は当然」という意思統一のもとで取り組まれました。「ストライキを構え、粘り強く団交を重ねてベアを獲得するなど、全体として運動が前進している」という発言もありました。

15秋闘・16春闘では、要求提出から妥結に至るまで産別統一行動に結集し、「大幅賃上げで生活改善、経済の好循環をつくりだす」ことを確認しました。

安倍自公政権は、「人権としての社会保障」を「自立・自助」へと変質させようとしています。私たちは、医療提供体制の縮小、国民皆保険制度の解体・変質、医療の営利化、国民負担の増大などを許さず、職場から地域から、患者や地域の人々とともに、医療・介護・福祉・生活保護・年金など社会保障の充実、国公立病院の拡充と地域医療の発展のために運動を強化することを確認しました。

労働法制改悪、震災復興、原発再稼働反対、基地・オスプレイ問題、TPP、消費税増税などの運動でも全国各地で共同の取り組みが大きく前進しています。「いのちまもるヒューマンチェーン行動」による新たな取り組みも生まれました。「沖縄に基地はいらない」の「オール沖縄」の力を、「安倍政権NO!」の大きな世論と運動に発展させ、労働者・国民要求を実現させていくことを確認しました。

戦後70年の節目の年に、日本の在り方が大きく問われる情勢の中で大会が開催されました。「たたかひの展望は連帯と団結」です。私たちが情勢を切り拓き、働くなかまの生活と権利を守り、国民要求の実現をすすめていくためにも、20万医労連の早期実現をめざし、医療産別運動を大きく発展させることを決意します。

2015年7月24日
日本医療労働組合連合会第65回定期大会